



## ヒバクシャ国際署名15万筆まであと少し！ 全首長署名まであと4人（加古川市、高砂市、洲本市、南あわじ市）

### 芦屋市で団体要請行動

◇芦屋市医師会から12月1日に80筆のヒバクシャ国際署名が芦屋市原爆被害者の会の千葉孝子会長宅に送られてきました。芦屋原水協と芦屋市原爆被害者の会が共同で署名への協力を要請していたものです。10月に芦屋原水協の笠間順子代表理事と被爆者の会の千葉会長が医師会館を訪ね、医師会事務局に県知事や芦屋市長などが連名で署名をよびかける県被団協作成のポスターを示して、ひとまず10枚の署名用紙を渡したところ「会員はもっている」と増し刷りを念頭にした返事があり、このほど預けた枚数以上の署名が返ってきました。同様に協力を要請していた市老人クラブ連合会の会長からも個人的に集めていただいた50筆の署名が千葉会長宅に届けられています。今回の取り組みに先立って、被爆者の会が独自に協力要請した芦屋市教職員組合(日教組加盟)からも預けた署名用紙を大量に増し刷りして1000筆近い署名が寄せられるなど、首長連名ポスターの効果もあって従来の域を超えた広がりが生まれています。芦屋市内での現在の署名の到達は目標の6割超えており、目標達成に向けてさらにとりくみを進めていこうと語り合っています。(平野貞雄事務局長)

### 西宮市が受取人払い郵便署名用紙

◇西宮市は、平和行政の一環として、折りたたむと「受取人払い封筒」になる署名用紙を市民に配布。これまで7442筆が届いているということです。

### 榎林歯科がちひろカレンダー200本

◇明石市原水協の理事長の榎林義雄さん(歯科医師)は、ちひろカレンダーを200本注文。患者などに歳暮代わりに届けています。「11月中にはほしい。患者は、あと1枚になるカレンダーでなく来年分が届くことで来年もがんばれると元気が出る」と、国際署名の訴えと合わせて手渡しています。原水協財政を支えることにもなっています。



### ロシア人家族なども署名

☆神戸市中央区の元町商店街での6・9行動は、神戸港に近いこともあり多くの外国人が行き来し、掲示した被爆写真に見入り、「ベリー・グッド」と親指を立てて行き過ぎる人や署名に応じる人が目立ちます。神戸港出身の中野勝人さんは、「外人キラ」と呼ばれるほど外国人に声をかけ20人の署名を集めたことも。11月6日には57人の署名のうち24人が外国人でした(イギリス、米国、ドイツ、ハイチ、インドネシア、ノルウェー、豪州、ベルギーの8カ国)。通りがかったロシア人家族が「ロシア語しかわからない」というので用意したロシア語署名用紙を渡すとともにサイン(写真上左)。英語以外にハンブルグ、中国、フランス、スペイン、ドイツ語の署名を用意して観光都市らしく楽しく、役にたつ行動を続けています。